

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：中華人民共和国）実践報告書

長野県飯田養護学校
嶋崎 晴美

タイトル：中国とモンゴルの楽器の音色を聴いてみよう！
～二胡と馬頭琴、モンゴルの楽器での演奏会～

実践教科：自立活動（時間数：全2時間）

対象児童・生徒：重度重複障害児童・生徒と小・中・高等部希望者

対象人数：50人

カリキュラム案

(1) 実践の内容・目的

中国の楽器「二胡」と「馬頭琴」やモンゴルの楽器による演奏会

- ・様々なハンディキャップをもっている本校の児童・生徒が、中国やモンゴルの楽器からの音色や曲を生演奏で聴くことにより、異国の文化に触れ、美しく響く音色から中国の大きさを「感覚」として感じられる機会にする。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>〈前時〉 テーマ：モンゴルの楽器を知ろう。 ねらい：馬頭琴の音色に触れ、馬頭琴という楽器を知る。</p>	<p>(1) モンゴルの楽器に馬頭琴という楽器があることを話す。 (2) 馬頭琴の演奏の CD を聴く。 (3) 表情や身振り、発声から曲を聴いた感触を見取る。</p>	<p>・馬頭琴で演奏している曲の入った CD</p>
<p>〈本時〉 テーマ：中国とモンゴルの楽器の音色を聴こう！ ねらい：中国やモンゴルの楽器の演奏を聴くことにより、異国の文化に触れ、美しく響く音色から中国の大きさを「感覚」として感じる。</p>	<p>(1) 中国語であいさつ、自己紹介をする。 (2) チャイナ服の説明をする。 (3) 中国の様子を映し出されたスクリーンの写真から知る。 (4) 二胡という楽器の説明を聞き、演奏を聴く。 (5) 馬頭琴という楽器の説明を聞き、演奏を聴く。 (6) モンゴルの楽器の説明を聞き、演奏を聴く。 (7) 演奏に合わせてみんなと一緒に「ふるさと」を歌う。 (8) 実際に楽器に触らせてもらう。</p>	<p>・チャイナ服 ・中国で撮影した写真 ・スクリーン ・投影機 ・二胡 ・馬頭琴 ・モンゴルの楽器（ヤッタカ・ホビ ス・ソトルゴ）</p>
<p>〈次時〉 テーマ：他の曲も聴いてみよう。 ねらい：いろいろなジャンルで演奏されている曲を聴き、音楽に親しむと共に経験を広げる。</p>	<p>(1) 新しい曲であることを話す。 (2) いろいろなジャンルで演奏されている二胡や馬頭琴の曲を聴く。 (3) 表情や身振り、発声から新しい曲を聴いた感触を見取る。</p>	<p>・二胡や馬頭琴で演奏している曲の入った CD</p>

授業の詳細（主な流れ）

段階	内容・方法	使用教材
導入	<p>(1)チャイナ服で登場。中国語であいさつ、自己紹介をする。 （こんにちは、わたしは嶋崎晴美です。はじめまして、どうぞよろしくお願ひします。）</p> <p>(2)チャイナ服の説明をする。 （回って見せる。日本でいうと着物と同じような民族衣装にあたる。）</p> <p>(3)中国の様子を映し出されたスクリーンの写真から知る。 （内蒙古自治区のシラムレン草原で馬頭琴を演奏していただいているところ、日中との気温差、歓迎のごちそうの様子、パオの説明、360度の地平線。あとは雰囲気作りに草原の様子を写し出しておく。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイナ服 ・中国で撮影した写真 ・スクリーン ・投影機 ・二胡 ・馬頭琴 ・モンゴルの楽器（ヤッタカ・ホビス・ソトルゴ）
展開	<p>(4)二胡の演奏を聴く（少年時代）。</p> <p>(5)二胡という楽器の説明を聞く。 （弦が2本で馬のしっぽの毛からできている楽器であること）</p> <p>(6)二胡の演奏を聴く（田園春色）。</p> <p>(7)馬頭琴の演奏を聴く（グリーンスリーブス）。</p> <p>(8)馬頭琴という楽器の説明を聞く。 （モンゴルの弦楽器であること、小学校2年生の教材「スーホの白い馬」というお話に出てくる楽器であること、馬の骨や皮、毛、しっぽの毛、筋から作られた楽器であったということ、今はもみの木や白樺の木から作られていること、弦は馬のしっぽの毛百本を束ねていること、弓も同じように馬のしっぽの毛からできていること、それをこすって音を出していること。）</p> <p>(9)馬頭琴の演奏を聴く（アメージンググレイス）。</p> <p>(10)モンゴルの曲の説明を聞く（お母さん）。</p> <p>(11)モンゴルの楽器（モンゴルの琴：ヤッタカ）の演奏を聴く（お母さん）。</p> <p>(12)モンゴルの楽器（モンゴルの琴：ヤッタカ）の演奏を聴く（私のふるさと）。</p> <p>(13)故郷モンゴルの話、曲の説明を聞く（私のふるさと）。 （モンゴルは夏が短い。けれどすごく気持ちがいい。1週間とか2週間いると休んだ気持ちになる。空がすごく広くて星がとれるような感じ。ぜひ遊びに行ってください）</p> <p>(14)モンゴルの話と楽器の説明（ホビス）。 （モンゴルには馬頭琴とホビスという楽器がある。馬頭琴は大事にしてみんなやることができるけれど、馬頭琴は神様から来たという習慣がある。今まで女の人がやるということはほとんどない。若い人でやる人もいるが、年取った人は好きではない。神様から来た楽器なので男性用の楽器という習慣がある。糸みみたいな音の楽器はモンゴルの女の人のような楽器。ホビスと馬頭琴と一緒にやって心を集めて戦争とかいろいろやる。これから演奏する曲は、ジンギスカンの時に、戦争の時に心を集めていきましょうという意味の曲。今から演奏をする楽器はモンゴルの女の人の楽器であること、馬頭琴は男の人の楽器であること）</p> <p>(15)モンゴルの楽器（ホビス）の演奏を聴く（みんなで心を合わせましょうという意味の歌と日本の島歌）。</p> <p>(16)モンゴルの話と楽器と曲の説明（モンゴルの三味線：ソトルゴ）。 （沖縄の三味線に似ているが、長いので弾くのが大変。表面は蛇の皮、2つの弦は羊の腸からできている。一番細いのはナイロン。日本は湿度が多いので三味線の音はあまりよくない。モンゴルは人と人とが会うチャンスは少ない。夏のお祭りにはみんな集まって話をする。1年の間元気でしたか？ と話す。そういう歌である）</p> <p>(17)モンゴルの楽器（モンゴルの三味線：ソトルゴ）の演奏を聴く。 （会えなかった1年の間、元気でしたか？ という意味合いの曲）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二胡 ・馬頭琴 ・モンゴルの楽器（ヤッタカ・ホビス・ソトルゴ）

	<p>(18)モンゴルの話と曲の説明 (モンゴルの琴：ヤッタカ) (モンゴルでは 50%～60%は遊牧民。遊牧民は馬に乗って羊や山羊と生活をする。ゲルは移動式住居。馬に乗って生活をするので馬は大事な家族の一員。馬が死んだときには広い場所やきれいな場所に骨を置いて、本当にありがとうございましたと言う習慣がある。お祝いの時や誕生の時とか幸せな時いつも馬の歌をたくさん歌う。それで最後に私の美しい白い馬という歌を歌います。琴はモンゴルではヤッタカという名前がある。昔、日本と韓国とモンゴルに同じようであった。今まではモンゴルは昔と同じように使われてきたが、日本の琴はちょっとアレンジして違うようになっている。韓国にはこういう琴はいっぱいある)</p> <p>(19)モンゴルの楽器 (モンゴルの琴：ヤッタカ) の演奏を聴く (私の美しい白い馬という曲)。</p>	
<p>終末</p>	<p>(20) 3人の演奏に合わせてみんなで一緒に「ふるさと」を歌う。 (演奏会はこれで終わるが3年後の夏、中国の北京市というところでオリンピックが開かれる。その時に今日のこの演奏を思い出してもらえたら嬉しい)</p> <p>(21)お礼のあいさつ (代表生徒) (初めて聴く音色にとっても興味深そうな表情で手を振ってリズムをとったり、手すりのところにトントンたたいてリズムをとったりしながら楽しむことができました。音楽を通して日本以外の曲に触れられたことはとても嬉しく思います。ありがとうございました。)</p> <p>(22)実際に楽器に触らせてもらう。記念撮影。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二胡 ・ギター ・モンゴルの楽器 (ソトルゴ)

※歌詞の説明

〈私のお母さん〉……神様は私という宝物をお母さんに贈りました。でも時が来れば神様はお母さんを天国に連れていってしまう。この時は二度と来ない。すべては訪れ、過ぎ去っていく。私の大好きなお母さんはたった1人。この世で私はお母さんのたった1つの宝物です。

〈私のふるさと〉…本当に遠いところ、私はいろんなことを勉強したくて来た。年取ったお母さんを残してきた。別れる時、泣いたお母さんと8月に会います。他の国で勉強をしてきた私。年取ったお父さんを残してきた。別れるとき、泣いたお父さんと一番花が咲くとき会います。こんな故郷へ私は帰りたい。

児童・生徒の反応 (演奏会中の児童・生徒の様子から)

- 馬頭琴の音色やホビスの音色と見事な指づかいに目と耳を集中させていました。一緒に歓声をあげていました。
- 初めて見る楽器の音色にじっと耳を傾けて静かに聴き入っていました。音楽が好きでなのでいろいろな曲が聴くことができよかったです。新しい経験が拓がりました。
- 初めて聴く音色に、まゆを上げたり、目をまん丸くしたりして興味深そうな表情で聴いていました。メロディーに合わせて腕を振って指揮したり、そこらじゅうをトントンたたいてリズムにのったりもしていました。
- 穏やかな表情で、二胡と馬頭琴の演奏を聴いていました。途中から心地よくなり、熟睡してしまいました。
- 目を大きくしてステージの方をじっと見ていました。二胡と馬頭琴のやさしい音色をじっと聴いていました。途中長くなり泣けてしまいました。

実践の振り返り（実践を通しての感想・反省点・今後の改善策など）

今回子どもたちのためにとボランティアで演奏をしていただいた方のおかげで本物の中国とモンゴルの楽器の音色を児童・生徒に聴いてもらうことができ、とてもありがたかった。私が予想していた以上に演奏していただいた方々は音楽に寄せる思いと故郷に寄せる思いが素晴らしく、音楽を通して伝えたい思いがたくさんであり、こちらが教えられるばかりであった。それなのに私がある楽器もこの楽器も聴いてもらいたいと欲張ったために1つの楽器での演奏時間は短く（二胡と馬頭琴）、結果的には申し訳ないことをしてしまった。時間的にもオーバーをしてしまい肝心の重度重複障害をもつ児童・生徒には大変辛い思いをさせてしまった。それぞれに違った楽器の音色が聞け、コラボレートをしてはいただけたが、時間的なことを考えると二胡と馬頭琴の演奏とモンゴルの楽器での演奏というように機会を分ければよかったのかもしれない。演奏をしていただく方に甘えていないで、こちらの方で実際に可能かどうかの見極めをしっかりとしなくてはいけないと感じた。演奏会を計画してみて外部からの方を招いて演奏していただくことの大変さを実感した。幸いにも今回の3人の方々は「また是非機会があれば」と言っていたので、何らかの形で今後につなげていけたらと思う。イベントのだけで終わることなく継続した取り組みが大切だと思う。どういったことが国際理解であり開発教育なのか考えていきたい。

※今回演奏をしてくださった方々

モンゴルの楽器……佐々木ハスゲレルさん（中国の内蒙古自治区出身）

飯田市切石から

馬頭琴……………弦楽器工房ドルチェ 武田芳雄さん

松本市から

二胡……………大石順子さん

愛知県豊田市から

（シラムレン草原で聴いた馬頭琴の音色が忘れられず、中国の楽器の二胡にも関心を持ち、子どもたちにもその音色を聴いてもらいたいと、情報を見つけると二胡や馬頭琴の演奏会に飛んで行っていた私の思いが膨らんできた中だったので、かなり無理もあったかと思えます。それにもかかわらず、子どもたちのために快くボランティアでの演奏をお受けくださった方々です）

〈大石順子さんの思い〉 いただいたメールより

- ・まだまだ二胡下手だけど、精一杯頑張ります。私の目標は華やかな舞台上で弾くよりも音色を通して、心と心の交流ができるような人になって出合いを大切にしたいと思っています。では木曜日楽しみにしています。

〈武田芳雄さんの思い〉 いただいたメールより

- ・資料を拝見しまして、嶋崎さんの趣旨と真摯な取り組みに感激しました。子どもたちに喜んでもらえる事でしたら、積極的に協力しますので、なんなりとご指示ください。ハンディキャップは誰もなにがしか抱いているものですね。それが生きてゆく障害にならない様な社会でなければと思います。そういう地域社会ができて、国として成り立つのではないのでしょうか。障害者の人たちは、そういうことをメッセージしているエンジェルだと私は思っています。音楽がすこしでもそのお手伝いになれば幸いですね。ご準備、大変かと存知ますが頑張ってください。では明日午後1時に入るようにいたしますのでお願いいたします。「ふるさと」みんなで歌いましょう。伴奏用にギターも持っていきます。
- ・昨日は大変お世話になりました。校長先生、嶋崎先生をはじめ職員の方々、生徒の皆さんに歓待していただきまして、とても楽しいひと時を過ごせました。お土産に頂いたカレンダー、さっそく仕事場にかざりました。1月のワンチャンの顔がとてもほほえましく、ほのぼのとします。どの月の絵も、とてもファンタジックで音楽的イメージをそそられますね。額装してコンサートの時に飾ってみようと思います。

嶋崎さん、お声をかけていただいてほんとうにありがとうございます！また新たなつながりが生まれそうです。今年の秋のコンサートにこのトリオでいこうかなとイメージしています。皆さん大変なお仕事ですが、お体に気をつけてがんばってください。もしクリスマスの行事がありましたら、又伺いたいですね。では失礼します。ありがとうございました。

〈佐々木ハスゲレルさん〉演奏会の中でのお話から

- ・以前はモンゴルは広くて大きな国だったが、今は内モンゴルは中国がとって、オリヤートモンゴルはロシアがとって、真ん中にある外モンゴルとオラマートル首都のある独立した国があって、みんなが知っている朝青龍の故郷です。私の故郷は内モンゴルのオルトスという場所にある。私は 17 歳の時に外モンゴルに行って音楽大学を卒業した。日本とモンゴルは本当に近い。話さなければ日本人に思われる。習慣とか言葉違うが、体の血が同じと思う。言葉も近い。日本に来たばかりの時は大変であったが、今は一番幸せ。いろいろな人に会えて、知り合いもできた。この素晴らしい国を大事にしていきたい。日本という国は素晴らしい。何でも手に入るし、何でもある。これから大事にする責任は私たち若い人たちにある。知らない習慣とか知らない言葉を勉強したいという心がいっぱいある。

このような素晴らしい方々に会うことができました。

最後に

前回の研修報告書にも書かせていただいておりますが、障害の重い子どもたちには伝えるのは難しいのではないかと思います、向かい合おうとしなかった自分が、多くのことはできないかもしれませんが、何か伝えることはないかと考えることができたことにより、素晴らしい方々に会うことができました。国際協力・国際理解という言葉の「国際」とは大きくくりのように感じますが、「国際」＝「人」のようにも感じてきました。人との協力・お互いの理解なのかなあと。

先日の長野県で行われた「青年海外協力隊現職参加教員帰国報告会」で協力隊活動を紹介している「どんな夢？」というビデオの中の言葉がとても印象に残りました。「人間関係力」「心と心のつながり」「スキルでないコミュニケーション能力」「心で触れあうことの大切さ」「形にこだわらない。心をつかむことに活動の原点が」「1人ひとりを大切にすることで、つながりが深まる」目の前の子どもたちに向けていこうと思います。このことが特に大切な子どもたちだということにも気づかせていただきました……。この半年間でハンディキャップをもった子どもたちに向く気持ちが随分と変わってきました。私にとって生涯忘れることのできない大きな出来事となりました。

もう1つ感じていることは、海外に目を向けることは日本を知ること、日本を見つめることになるということです。ひいては国→県→地域→自分にかえるということも聞きました。「内なる国際化」という言葉でしたが、自分を見つめることにもなるのかと思います。「外を見ることによって自分自身に問いかける」ことにも注目したいと思います。日本という国をもっともっと知りながら……。

今回の教師海外研修に参加させていただいたことにより、事前学習でお世話になった皆さん、先生方、同じグループの仲間、中国でお世話になった方々、この演奏会を通じて知り合えた方々、多くの方に出会うことができました。いろいろな考え方、生き方、人生を学ばせていただけたこと、本当に感謝です。心から、ありがとうございました。

これからもこのネットワークにより、更に多くの方と知り合えることを楽しみにしています。引き続きまして、よろしく願い致します。

演奏会の様子



〈中国で撮影をした写真の紹介〉



〈大石さんの二胡の演奏〉



〈武田さんの馬頭琴の演奏〉



〈ハスゲレルさんのヤッタカの演奏〉



〈ハスゲレルさんのホビスの演奏〉



〈3人の方の演奏で「ふるさと」を合唱〉



〈リラックスして穏やかな表情で演奏を聴く生徒〉



〈曲に合わせて腕を振り、
リズムに合わせて演奏を聴く生徒〉



〈演奏を聴いている様子〉



〈演奏者の方と一緒に記念撮影〉

平成17年度教師海外研修（派遣国：中華人民共和国）実践報告書

長野市立三輪小学校
湯本 英晴

タイトル：6-2 世界を知ろう「中華人民共和国」
実践教科：総合および社会科（時間数：総合10時間、社会6時間）
対象生徒・学年：6年生
対象人数：32名

カリキュラム案

(1)実践の目的

6年2組は本年度、日本に留学しているミャンマーの方との交流を通して、自分と同じ時代を生活している外国の人の様子、子どもたちの現状を学んできた。また、「世界がもし100人の村だったら」をテーマにした番組を取りかかりとして世界の子どもの現状を扱ってきた。

中華人民共和国については、社会科の歴史や日本とのつながりを、調査、まとめ、発表する单元がある。また歴史では、両国の不幸な歴史を学び、その後、国際協調関係を学んで行く。そこで、現在の中国の人の姿や考え方に触れさせ、これからの両国の良い関係づくりを考える一歩としたいと考え、教材化を考えた。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 私達の身の回りにあるたくさんのメイドインチャイナを探そう。（日本とのつながりの今を考える。）	自分たちの持ち物、着ているもの、食べ物から探してきた「Made in CINA」のものを紹介しながら区分していこう。 5年生のときに行った食料の輸入を思い出させ、事前調査活動を仕組んでおく。	デジカメに記録 対中貿易図
2時限 世界の工場中国ってどんな国か日本との貿易を基に考える。（現在の中国を知ろう）	電気製品、衣類、食料たくさんのものが日本にやってきている。 中国の概要を説明する。ものの関係が深まっている事を知る。 いったいどんな人が作っているのだろう。	社会科資料集 社会科ビデオ教材
3時限 出稼ぎに行く少女の事実を知り、早くに働く事がいいのか、良くないのか自分なりの考えが持てる	ミャンマー学習の時のことを思い出し、農村からやってきて働きにやってくる少女についてのビデオを見て、働くこと、学ぶことについて討論会をして、お互いの考えを述べあう。	テレビ番組 「ガイアの夜明け」から
4時限 中国の大学生は、今の中国をどう見ているのだろう。そして、何を考えているのだろう。 作文から読み取ろう。	中国の大学生の生活や小学生について様子を知る。 家庭教師をするAさんが語る内蒙古の子どもたちについて話しているビデオを見る。 ①王 路さん 「発展する中国と私」 ②李 燕さん「発展する中国と私の生活」	・内蒙古師範大学の交流ビデオ 第5回中国大学生日本語コンクール作文集 2004 JICA 中国事務所作 現地撮影写真など
5時限 学級討論会をしよう。	前時のビデオ視聴からテーマを絞って、「勉強をすべき」「働くのは仕方ない」に別れ討論会を開く。	

	学校進学をあきらめて家族のために、働かなくて信じられない。	
6時限 日本と中国の文化のつながりを考えよう。 (ものだけでなく文化が行き交うことを知ろう)	中国語版『ドラえもん』を読み、漢字という共通文字文化で二つの国がつながっていることを理解する。3名1グループごとに1シーンをあたえ物語を予想させ、自分たちの答えが正しいか漫画をヒントに考える。	中国語版 『ドラえもん』 日本語版 『ドラえもん』
7時限 日本と歴史のつながりを見直そう。 (歴史的つながりを考えよう)	歴史で学習した、「戦争の時代」の不幸な関係について想起させる。あなたが中国の人だったら、なんと言うだろうか、を考える。	現地撮影写真 日本を批判する本。
8時限 今までの学習で感じたことを作文に書こう。	「少女が働きに行くということ」 「歴史から学んだこと、思うこと」 「戦争について考えたこと」について書く。 「中国から沢山の品物が輸入されていること」	
9時限 みんなの書いた作文を基に話し合い、これからの中国と日本の関係を考える。	今まで学んできた中国の人の考えや文化について振り返るために、みんなの感想を読みあい、お互いの考えたことを意見交換しあう。	前時で書いた作文の増し刷りを用意

社会科「海外で活躍する日本人」「協力隊の活動」を学ぼう。

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 先生が中国で出会った、河村さんを紹介し、日本から沢山の人が、海外に出て活躍していることを知る。	土地に合い、害虫にも強いポプラを、河村さんたちはなぜ育てているのだろう。 中国の環境問題に触れ、緑を増やす活動をしていることを学ぶ。	中国の国土の緑の割合 日本との対比 現地撮影ビデオ 青年海外協力隊募集要項
2時限～3時限 他にも、海外で活躍する人はいるのか、インターネットで調べてみよう。	インターネットを使って調べてみよう。 NGOで検索すると沢山出てくるので、いくつか絞って、国際ボランティアの様子を知る。	JICA ホームページ NGOシャプラニールホームページ
4時限 個々に調べたことをまとめる。	方眼ボール紙にまとめる。 どんな国で、どんな活動を、どんな人がしているか、を押さえる。	
5時限 発表会	自分の調べたことを、互いに発表し合い、聞くことで感想を持つことができる。	地域がわかるように世界地図で確認していく。
6時限 まとめの会 友達の発表「作品」に感想（評価を）つけてあげよう。	感想を付箋に書き、友達の発表「作品」に感想（評価を）つけてあげよう。	

ねらい

中学を卒業した農村の少女が、家族のために都会へ出稼ぎに出かける姿をビデオで見た子どもたちが、勉強をあきらめて働きに行くことがよいか、良くないかを討論して考え合う。

本時案

過程	学 習 活 動	予想される児童の反応	支援○ 評価※	T	備 考
導 入	1. 学習問題を把握する。 少女が学校への進学をあきらめ、都会へ働きに行くのは 賛成・反対 2 グループに分かれ討論をする。	はじめの感想 働いて、家を買えるならば、彼女はいいことをしている。 でも、中国では、塾に行く子もいたよ。受験戦争だって先生が言ったね。	○自分の意見はまず、どちらか挙手で確認する。 ○学習カードを見返させメモにまとめたことを見ながら考えさせる。	2	板書
展	2. 立案 賛成グループ 反対グループ	賛成 中学を出てすぐに親から離れて行くのはかわいそうだけれど、家族のため働きに行くのは偉いと思う。よいことだと思う。 反対 少女は、勉強をあきらめた、と言っていた。本当は、もう少し勉強がしたかったのではないか、だから勉強させてあげないといけない。	○友達の感想に関連づけて自分の意見を言えるように、お互いの意見を工夫して板書する。 ※今まで調べてわかったことや自分たちの生活との違いに目を向けて発表できたか。	1 0	板書
開	3. 反駁① 賛成グループ 反対グループ 反駁② 賛成グループ 反対グループ	勉強したくない人だっている。それならば、早く働いてお金を稼ぐのは仕方ないことだ。中国だって豊かになる。勉強する人は少しいればいい。 私たちだって、今高校までいく。親も「高校くらいは出なくては」というし、彼女が勉強するチャンスがないのはいけないことだ。 だったら、働いてお金を稼いだら、また、学校に行けばよい。今は貧しいのだから仕方ない。 そんなことはない。学校ではなくても勉強できるという人もいるが、それは、無理だ。勉強できるように、親や国が考えなくては。勉強する人は少しでいいと言ったけれど、みんなが勉強するチャンスがないと、しっかり働く人も少なくなってしまう。 だから、勉強できるようにすべきだ。 賛成6 対 反対16	○両グループの中国の少女に対する思いを聞いて、自分の考えが持てたか。 メモを取らせる。	1 5 8	ビデオの用意
まとめ	4. 審判団のジャッジ 聞いていた感想を述べる。	気持ちは、賛成派だけど、やっぱり反対派の方がしっかりした意見だと思う。	※家族のために働くその利は認めつつ、貧しくて学ぶことができないという現状にも配慮させる。	5	

子どもたちの感想（3時限から考えたこと）

少女が働きにでるということ

高橋 令子（仮名）

わたしは、よく「今日学校で何をしよう」とか、「今日の給食はなんだろう」と考えることがある。今朝も、「早く吹奏楽の朝練にいかなくちゃ」と思って家を飛び出してきた。ビデオに出てきた少女は、学校に行くのではなく、働きに行く。それも自分の家から離れたところで。日本だったら高校に行って、きっと友達と好きなテレビやおしゃれの話しをしているのかもしれない。でもこの少女はちがう。家族のために勉強をあきらめて働きに行くのだ。少女が働くことで家族のために家を買うことができる、今の私にはそんなことはできない。すごいと思った。

もう一つ考えたのは、勉強をあきらめてしまわなくてはならないことだ。討論会をしたとき、A君は、「自分で働くことを選んだのだから仕方がない」と言った。でも、わたしはそれは変だと思う。働くことは確かに必要かもしれないが、子どもは勉強して将来の自分のしたいことを決める。でも、少女には自分では決めることはできないのだ。どんなにたくさんものを作っても、勉強していかないと働くだけで終わってしまう。ミャンマーのときも思ったけれど、子どもたちが勉強を続けられるようにするのは、その国の大人の責任だと思う。もし、それができなければ、その国の未来は不幸だと私は思う。

少女が働きにでるということ

田中 夏子（仮名）

私が、中国の少女のビデオで見たことをおばあちゃんに話したら、昔の日本も同じだったと言った。本当にそんなことがあったのか信じられない気もするが、日本が貧しかったことは、歴史で勉強したのでなんとなくわかるような気がする。私は、少女が家族のために働くなんてすごいと思う。家族思いの子だと思った。なぜ、そう思ったかという、ふるさとの村からまた働きに出かけていくとき、少女が泣いていたからだ。たぶん家族のために家を建ててあげたいという夢をかなえるために、決心して働きに行くのだと思う。私にはできないことだと思った。

少女が働きに行くということ

中島 啓（仮名）

ぼくは、自分一人で働いて家を建てようとするなんて、すごい少女だと思った。少女は、自分で働くことを選んだのだし、そのことを家族も応援しているのだと思う。勉強が好きでないぼくでも、学校をやめなくてはならないのはショックだ。少女は貧しい暮らしをやめたかったのだと思う。そうやって、決心したのだから、学校に行かれなかったのも仕方がないことだと思う。

歴史の勉強を見直して思うこと

小須田 純弥（仮名）

ぼくが今まで歴史を学んできて、何よりも心をひかれたのは、その時代その時代のたくさんの出来事や、ある人物によって、世の中がどんどん移り変わることです。その中で、ぼくが一番すごいと思ったのは、戦争中あんなにたくさんの爆弾を投下され、街がボロボロになったにもかかわらず、戦後わずか戦前よりも電化製品が栄えるなど、いろいろな発展をしたことです。人々の力によってものすごい「進化」をしたことが、すごいことだと思いました。

歴史をやっていると、まだまだ、いろいろ考えさせられることがいっぱいあります。歴史を通して、今生きているぼくたちが、何をすべきかということをおおきな責任として感じる必要があります。長い時代をかけて築き上げてきたこの歴史を、たくさんの国の人々や日本の国の人々のつながりを考えながら、見守っていきたいと思いました。

戦争の世の中

佐藤 美希（仮名）

私は、歴史をたくさん学んできました。その中でも、一番心に残っていることは、戦争をたくさんしてきた日本のことです。戦場となった沖縄では、敵味方関係なくたくさんの方が亡くなりました。沖縄だけでなく、原爆を落とされた広島、長崎ほかにもいろんな所で人が亡くなりました。

私が不思議に思ったことは、どうして日本は、戦争をし続けたのか疑問に思いました。戦争をすればたくさんの方が亡くなり、たくさんの方が傷つくのに。韓国まで植民地にして、中国の満州まで植民地にして。そんなことをしなければ、今はもっといろんな国と仲良くできたと思います。日本は、朝鮮や中国の人を兵士にさせて戦争を続けました。戦争は、二度とやってはいけないということを学びました。世界中でも平和な世の中になればいいと思いました。

戦争のない世の中に、私にできること

和田 有美 (仮名)

私の将来の夢は、ユニセフや外国で活動し、戦争などで苦しんでいる子どもたちを助けることです。私が、この仕事に就きたいと思った理由は、五年生の時に総合の時間でやった『世界がもし100人の村だったら』～著者 池田香代子(編) マガジンハウス(編)～という教材を使った勉強でした。学校へ行くことができず、弟、妹を学校へ行かせるためにベビーシッターや使用人という仕事を一生懸命やっている子どもたちがいるという事を知り、びっくりしました。

それから、6年生になったときも、国語で「平和のとりでを築く」という勉強の続きで、アフリカでは、父母が戦争で殺されて、生きるために6才で兵士になった子どもがいることを知りました。今年、ミャンマーや中国の勉強をしていきました。やはり、子どもたちが学校に安心していけない、つまり平和でない時間を生きている子どもたちが沢山います。私は、そういう子どもたちを助け、困っている子どもたちがいなくなるような、支援活動をするためにがんばりたいと思います。

担任の感想と反省

「中華人民共和国」は、小学生にとって、近くて遠い国だ。小学生は、地図を見て、中国の方が近いという。日本では漢字も使えるし、中国では日本のアニメが有名だからだ。でも、実際にはアメリカの娯楽文化のほうが、子どもにとってもはるかに身近で親しみを持てるものである。

実際に授業を考えると、どこを切り取ってくるか、子どもたちにどんなことを知ってほしいのか、迷うことがあった。今動いている国のありよう、子どもたちの誤解や無知から、「よりよい関係づくり」の妨げになってはいけないと考えるものの、もしかすると、私が誤解しているのはいか、迷いつつ進めてきた中国学習であった。

今後の課題

頭で考える授業が多いことが、反省点である。そのことをどう乗り越え、活動を組み込んでいくかが課題である。小学6年生は、だいぶ大人に近い抽象的な思考ができるようになるが、それも全員の子というわけではない。できるだけ身近なものや人との出会いから、授業づくりができるよう、私自身アンテナを高くして、つながりを大切にしていきたい。